

2023年3月期 第3四半期(累計) 連結決算ハイライト

1. 連結業績概要

第3四半期(累計)	実績	
	2022/3期 第3四半期	2023/3期 第3四半期
売上高	76,073	87,596
営業利益 (営業利益率)	4,079 (5.4%)	1,826 (2.1%)
経常利益 (経常利益率)	3,950 (5.2%)	2,020 (2.3%)
親会社株主に帰属する四半期純損益 (純損益率)	1,941 (2.6%)	△ 2,375 (△2.7%)
自己資本当期純利益率(ROE)*	4.5%	△ 5.2%
自己資本比率	36.1%	34.9%
純有利子負債(有利子負債-現預金)	34,547	41,687
設備投資	5,160	4,300
減価償却費	6,812	7,149
研究開発費	1,429	1,538
連結子会社数	33	33
為替レート(1USD/円)	111.92	144.81
為替レート(1ユーロ/円)	129.86	142.32

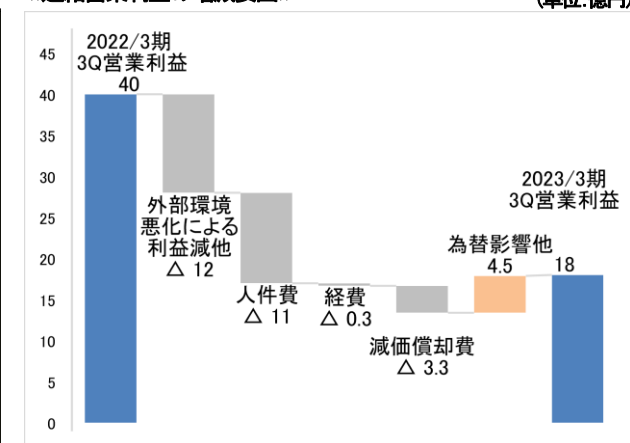
前年同四半期比	
増減額	増減率
11,523	15.1%
△ 2,252 (△3.3%)	-
△ 1,929 (△2.9%)	△ 48.9%
△ 4,317 (△5.3%)	-
△ 9.7%	-
△ 1.2%	-
7,140	20.7%
△ 859	△ 16.7%
336	4.9%
109	7.6%
0	-

*左記為替レートは各期9月末TTMレート

(単位:百万円)

予想
2023/3期 通期
110,000
1,800 (1.6%)
2,000 (1.8%)
△ 3,100 (△2.8%)
-
-
-
5,500
9,600
2,000
-
132.70
141.47

《連結営業利益の増減要因》



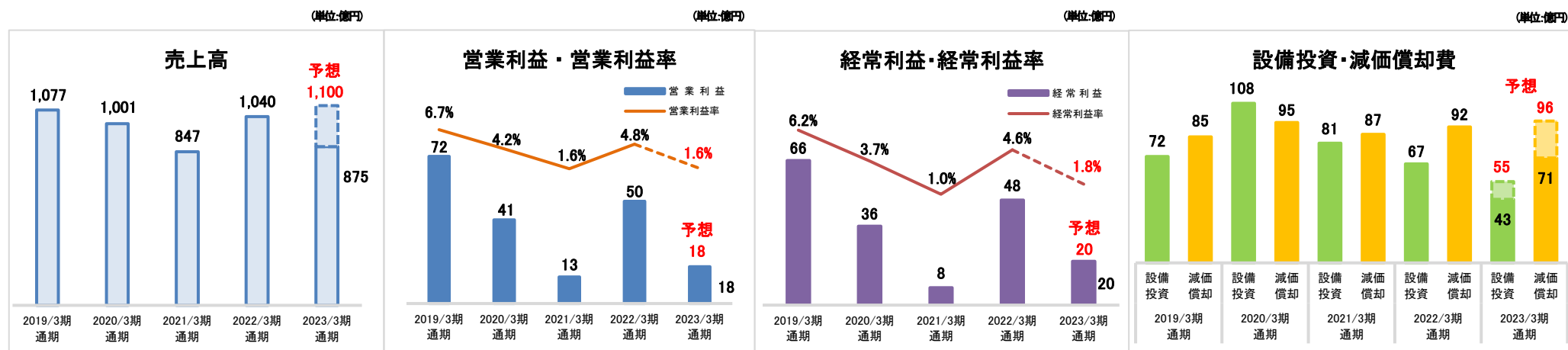
《配当・配当性向》

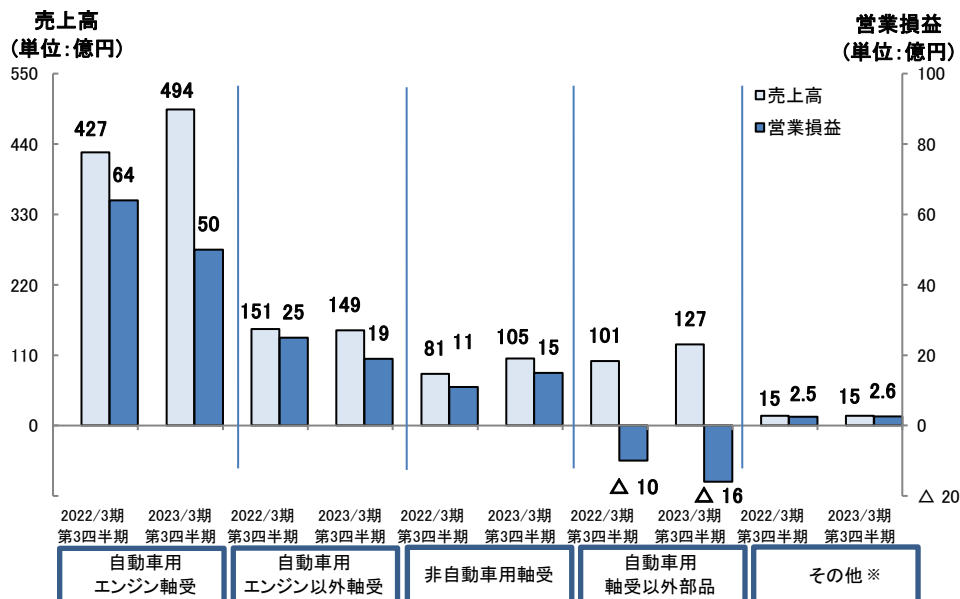
	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期 (予定)
中間	15円	* 20円	10円	10円	10円
期末	15円	15円	10円	15円	未定
年間	30円	35円	20円	25円	-
配当性向	32.0%	60.1%	888.7%	61.4%	-

※ 2020/3期中間配当…普通配当(15円)+記念配当(5円)

* ROEは、親会社株主に帰属する四半期純損益を年換算し算出しております。

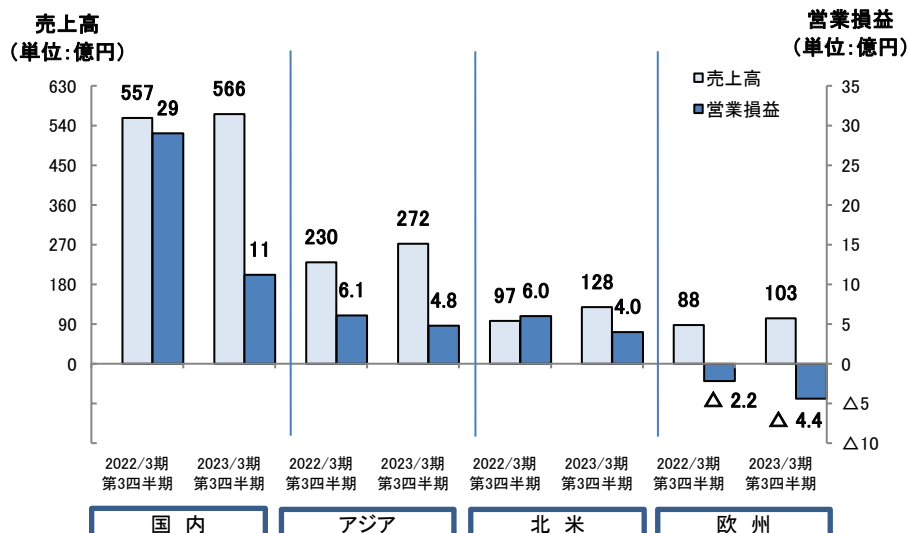
2. 連結業績/設備投資・減価償却費 推移



3. セグメント別情報 / 売上高・営業損益(セグメント間消去前)


※「その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金属系無潤滑軸受事業、ポンプ関連製品事業、電気二重層キャパシタ用電極シート、不動産賃貸事業等を含んでおります。

セグメント	【売上高】		増減要因ポイント項目	【営業損益】	
	売上高構成比 2023/3期 第3四半期	前年同四半期比 増減額 (増減率)		前年同四半期比 増減額 (増減率)	増減要因ポイント項目
自動車用エンジン軸受	55.4%	6,680 (15.6%)	◎日本: 乗用車では半導体供給不足の影響に起因する減産影響はあるものの海外向けなどの好調もあり、微増 ◎日本: トラックでは半導体など供給不足の影響はあるものの需要は堅調に推移し、受注増 ◎インドネシア: 需要の好調による受注増	△1,407 (△21.7%)	△原材料やエネルギーコスト増に伴う影響
自動車用エンジン以外軸受	16.7%	△196 (△1.3%)	△日本: 乗用車関連では底堅い需要はあるものの、半導体など供給不足の影響に起因するカーメーカーでの減産影響による受注減 ◎北米: コロナからの回復により需要が底堅く推移した事による受注増	△550 (△21.6%)	△原材料やエネルギーコスト増に伴う影響
非自動車用軸受	11.9%	2,435 (29.9%)	◎船舶分野: 世界経済の回復に伴う海上荷動きの増加、メンテナンス需要の増加傾向に加えLNG船(液化天然ガスを運ぶタンカー)等、受注環境の好転や開拓による受注増 ◎建設機械分野他: 建設機械関連向けの組み付け・サービスパーツや発電機等の需要増加による受注増 ◎エネルギー分野: 電力不足に伴い火力発電用向けガスタービン・蒸気タービン用軸受やメンテナンス部品の需要好調による受注増	336 (28.5%)	◎増収による影響
自動車用軸受以外部品	14.3%	2,583 (25.4%)	◎飯野グループ: 世界的な半導体供給不足などによる受注の減少はあるものの為替の円安による影響 ◎アルミダイカスト製品: コロナからの回復及び電動自動車用の新規納入による受注増	△642 (-)	△飯野グループ: 原材料やエネルギーコスト増に伴う影響 △アルミダイカスト製品: 電動自動車用部品の本格生産開始により増加したコストの改善遅れ及び新規受注品でのコスト増
その他	1.7%	△12 (△0.8%)	△金属系無潤滑軸受の在庫調整に伴う減収の影響があるものの、工作機械向け潤滑装置の需要は底堅く推移し、受注微減	14 (5.9%)	◎売価への転嫁活動による価格改善の寄与
セグメント間消去		33		△3	
全体合計:		11,523 (15.1%)		△2,252 (△55.2%)	

4. 所在地別情報 / 売上高・営業損益(内部取引消去前)


※所在地別情報の営業損益は、内部取引消去の考え方を見直し、前年同四半期数値に変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

地域	【売上高】		増減要因ポイント項目	【営業損益】	
	売上高構成比 2023/3期 第3四半期	前年同四半期比 増減額 (増減率)		前年同四半期比 増減額 (増減率)	増減要因ポイント項目
国内	52.9%	840 (1.5%)	◎乗用車: 乗用車では半導体供給不足の影響に起因する減産影響はあるものの海外向けなどの好調もあり、微増 ◎トラック: 半導体など供給不足の影響はあるものの需要は堅調に推移し、受注増 ◎建設機械分野他: 組み付け・サービスパーツの継続的な需要増加などによる受注増	△1,842 (△62.1%)	△原材料やエネルギーコスト増に伴う影響
アジア	25.5%	4,221 (18.3%)	◎タイ: コロナからの回復及び電動自動車用の新規納入による受注増(アルミダイカスト製品) ◎インドネシア: 需要の好調による受注増	△126 (△20.6%)	△タイ: 電動自動車用部品の本格生産開始により増加したコストの改善遅れ及び新規受注品でのコスト増
北米	12.0%	3,046 (31.1%)	◎乗用車関連やトラックの底堅い需要増に伴う受注増 ◎建設機械分野: 需要好調の継続による受注増	△204 (△33.7%)	△付加価値製品の減少による影響
欧州(ロシア含む)	9.7%	1,503 (17.0%)	◎非自動車用軸受(中・高速ディーゼル用等)の開拓による受注増 △半導体など供給不足やウクライナ情勢等の影響による受注減	△218 (-)	△半導体など供給不足やウクライナ情勢等の影響による受注減少による影響
内部取引消去		1,911		138	
全体合計:		11,523 (15.1%)		△2,252 (△55.2%)	

(注) 業績見直し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。